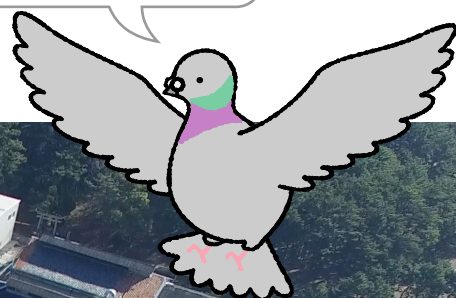


ようこそ！ シバタ工業株式会社の本社工場へ！ 工場見学BOOK

ここがシバタの工場か…



SHIBATA

シバタ工業株式会社
SHIBATA INDUSTRIAL CO.,LTD.

シバタの工場見学へようこそ！

さっそくご案内したいのですが…何やら鳩さんも一緒に来てしまったようですね…
鳩さん、**工場内は鳩は立ち入り禁止**ですよ。

ポ？私はただの鳩ではない。
シバタに昔お世話になっていた鳩の
子孫なのである。
シバタと言えば鳩、
鳩といえばシバタなのである。

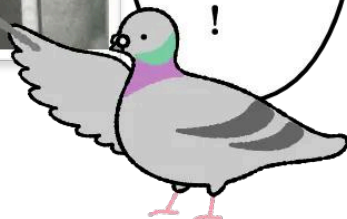


※シバタ工業には昔、マスコットとして鳩が
いました。電話が通じにくかった時代には
鳩たちが明石本社から神戸支社まで手紙を
届けるなど、活躍していたそうです。

※ハト印の履物は、シバタのロングセラー商品です。



ほら、
ここにも鳩が！



…うーん、わかりました。では一緒に製造の現場を見学していきましょう。
でも工場長に見つかってつまみ出されても知らないですよ？

全ての始まり、原料



原料をくちばしで突かないでくださいよ…

でも良いところに気づきましたね。
シバタでは天然ゴムや合成ゴムを原料として製品を
作りますが、どちらも最初はとても硬いんです。

こんなに硬いですが、天然ゴムは実は木の樹液か
ら作られるんですよ！

パラゴムノキという木の樹液を加工したものが、
この天然ゴムなんです。

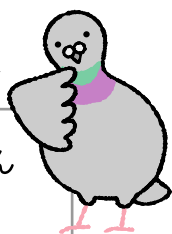


ゴム練り（素練り）

この、硬い原料を使いやすくするには…こうです！



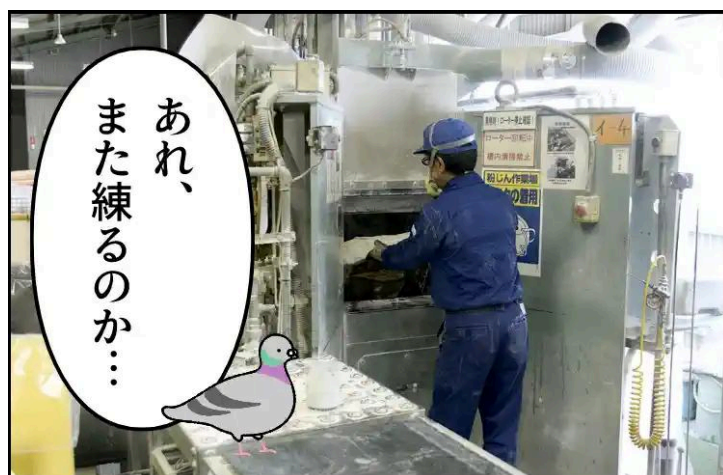
あんなに硬かった原料がどんどん
伸ばされてこねられていく…
機械はすごいなあ…



全ての製品を作るためにはまず原料をこのように
素練りして使いやすい状態にします。

そしてそれが終わったら、
次の作業場へバトンタッチです。

ゴム練り（混合練り）



今度は製品ごとに必要な性質が出るように、色々
な薬品を混ぜて行きます！



シート状にする、圧延

必要な性質、色のゴムができたら、必要に応じて薄く伸ばします。

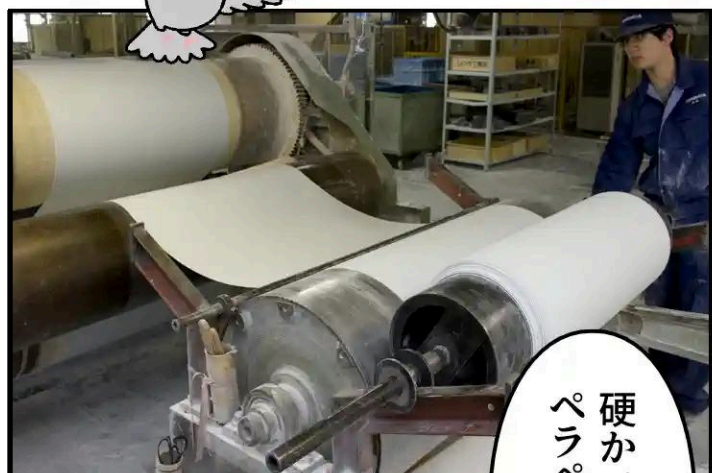


作る製品によっては、伸ばすのではなく、押し出して整形したりもします。

パスタのような感じですね。

必要なパーツを切り分ける、裁断

圧延で薄く伸ばしたゴムは、裁断して必要な形のパーツにします。クッキーみたいに抜き型を押し当ててカットします。



硬かったゴムが
ペラペラに!



そう言われると
美味しそうに
見えてしまう...



食べちゃダメですよ。

これは長靴用のパーツですが、多くて30程のパーツがあります。

裁断できたら検品を行なって、不良品を取り除きます。

いよいよ形を作る、成形



長靴を成形するための型ですよ。



はい。シバタの履き物の品質を支えるのは、一足ずつ丁寧に行われる手作業です。

高い品質を誇るシバタの長靴は、あらゆる場所で採用され、様々な環境で活躍しています。

ちなみにこの黄色い長靴は、ある特殊な作業用の長靴（用途はヒミツ）です。



マイナス60度でも
寒くない！



油に強い！



電気から人を守る！



深いところもOK！

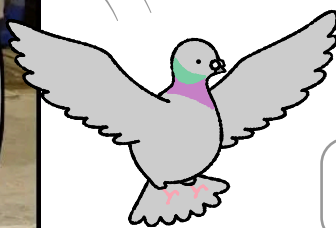
ゴムの性質を出す、加硫

ついに、ここまで来ました！成形した長靴を、加硫缶という釜に入れ、蒸気で加熱します。

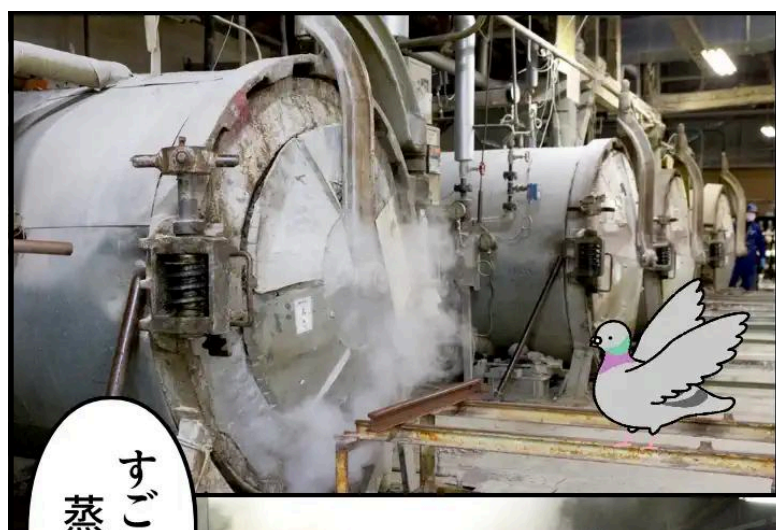


こらこら、降りておりて！釜に入ったら蒸し鳥になっちゃいますよ！

※工場見学中は係の人の指示に従おう！



おっと危ない...

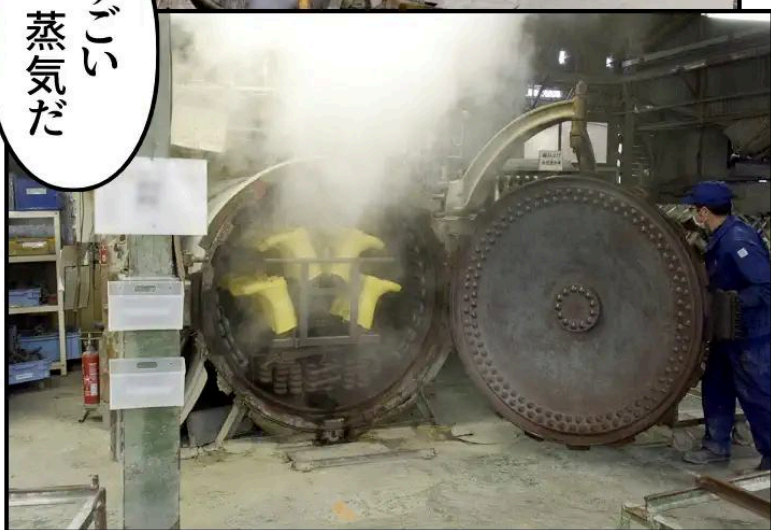


この加硫という工程で、ゴムらしい**弾性**が生まれます。

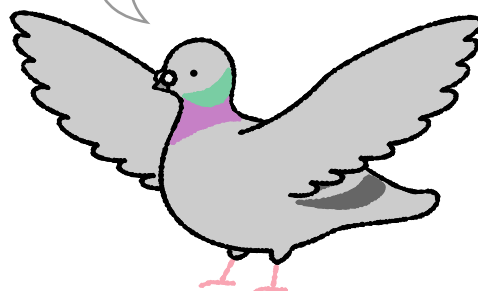
この後、仕上げと検査を行い、合格した製品だけが梱包されて出荷されます。

長靴づくりはいかがでしたか？

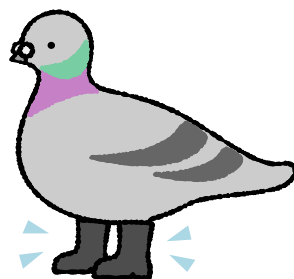
こねて、混ぜて、型抜きして、形を整えて、最後は加熱する…ちょっとだけお菓子作りに似てますね！



ついに長靴が完成した！



ふむ…あの硬い原料の塊が見慣れた長靴の形になるには、
こんなに色々な工程があるのだな。
ほかの製品も気になってきた…



ではほかの所も見に行ってみましょう！
…いつの間に長靴を…？

大きな製品には大きな加硫缶

長靴よりも大きなものを作るには、大きな加硫缶が必要になります。
こーんな大きな加硫缶で、一体どんなものを作るのでしょうか？



これは大きい！
奥が深くて見えないぞ…



ところでこのおじさんは？

お、おじさ…社長ですよ！！
怒られても知りませんからね！

シバタ工業株式会社
代表取締役社長
柴田 充喜

シバタの巨大な製品たち

身近な履物から始まったシバタですが、今は世界中の港で活躍する防舷材や、物流に使われるフレキシブルコンテナなど、大きな製品もたくさん作っています。

船体取付防舷材



浮体式防舷材



何年も外で雨風や潮風に耐える防舷材や、静電気の放電が起きては行けない場所で使うために、うまく電気を逃がす素材のフレキシブルコンテナなど、特殊な製品が沢山作られています。

フレキシブルコンテナ

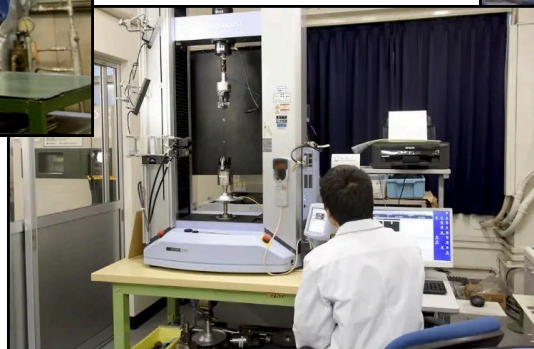
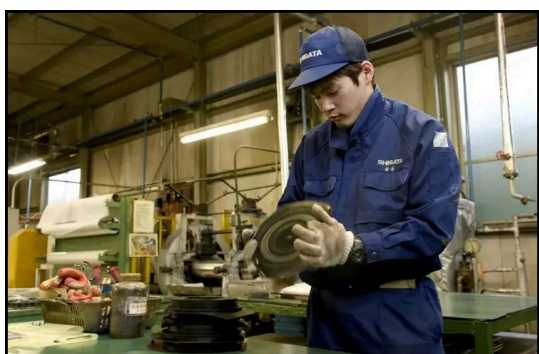


ポポッ！

長靴とは比べ物にならない大きさだ…

一体どうやってこんなものを作れるようになったのか…？

それは、長年にわたる研究開発の賜物です。



様々な試験を行い、ゴムのあらゆる性質を引き出し、トライアンドエラーを繰り返してきた、歴史の積み重ねなのです。

MEMO

